



七尾市

地区別復興構想  
和倉地区

2025.11

## 目次

地区別復興構想の策定にあたって-----	2
七尾市戦略的復興プランとの関連性-----	3
1 和倉地区の現況の整理-----	4
2 地域の課題-----	8
3 復興まちづくりの方針-----	10
4 復興まちづくりに向けて考えられる施策-----	12

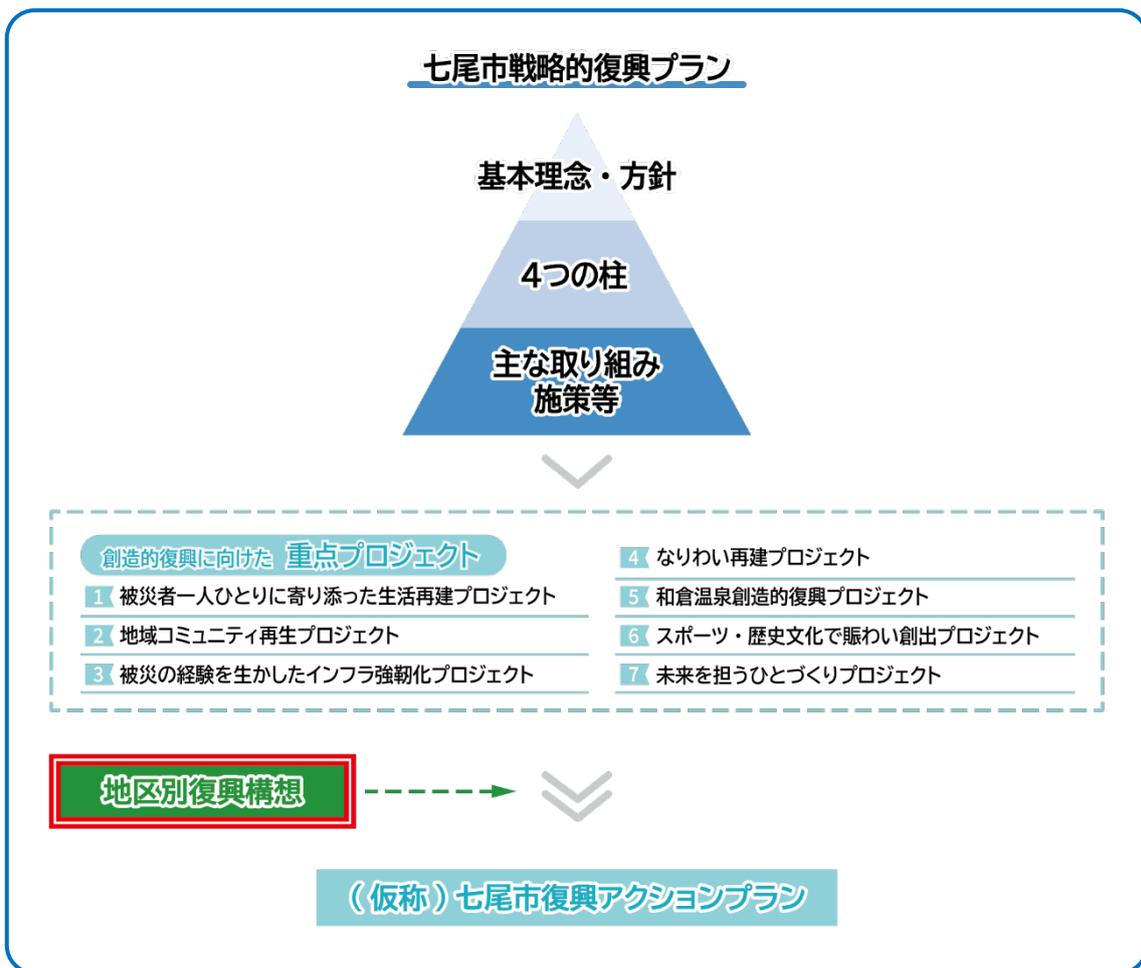
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

## 地区別復興構想の策定にあたって

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和7年2月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

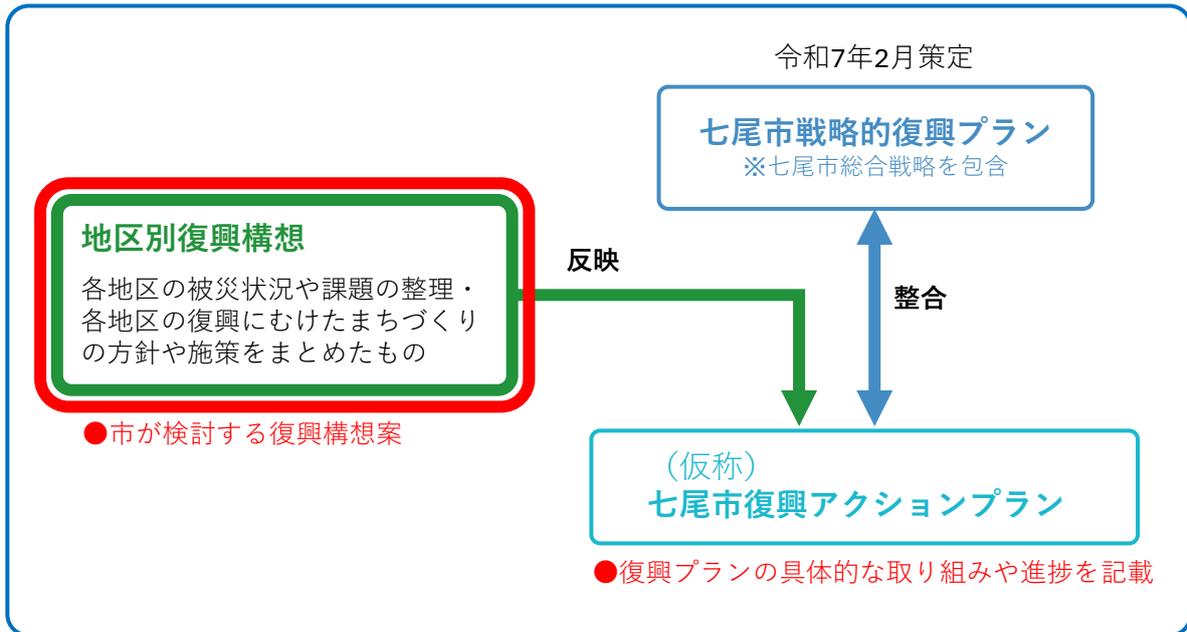
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全15地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



## 七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取り組み」に対して意見を伺いました。



# 1 和倉地区の現況の整理

## (1) 被災状況

七尾市のほぼ中央に位置し、令和7年10月末時点で人口2,520人の地区である。

昭和14年に七尾町および1町5村（東湊村、矢田郷村、徳田村、西湊村、石崎村、和倉町の一部）、平成16年に3町（田鶴浜町、中島町、能登島町）との合併により七尾市となる。

令和6年能登半島地震により、護岸の多くが損傷した。それに伴い、大型旅館の営業再開が見通せずにいる。また、被災した住家の約24%が半壊以上の被害を受けている。上下水道インフラもダメージを受け、道路の復旧工事と合わせて復旧が中長期で必要となることが想定されている。

また、奥原町を中心に液状化現象が発生し、建物が傾いたり沈下するなど様々な被害が発生している。

住宅	青林寺北東の古い木造住宅の多くが全壊。その他の建物の多くが半壊 被災した住家の約24%が半壊以上 特に和倉町や奥原町で大きな被害
公共施設	壁の損傷や設備の故障など (和倉小学校、和倉地区コミュニティセンター、旧奥原保育園、和倉温泉お祭り会館) 和倉小学校では液状化による沈下、和倉温泉観光交流センターや湯っ足りパークでは地割れや段差被害
道路	亀裂・マンホールの浮上り被害 特に、元町や奥原町で被害が多い
護岸・河川	護岸倒壊、護岸損傷、柵倒壊の被害 護岸破損が1か所で発生(奥原川)
公園・緑地	湯っ足りパーク内の足湯施設が損傷 和倉みなと公園で敷地陥没や配管損傷
その他	壁面損傷・亀裂や建物が傾き、多くの旅館が休業 斜面崩壊が6か所で発生 宅地造成被害が5か所で発生 ため池被害が1か所で発生

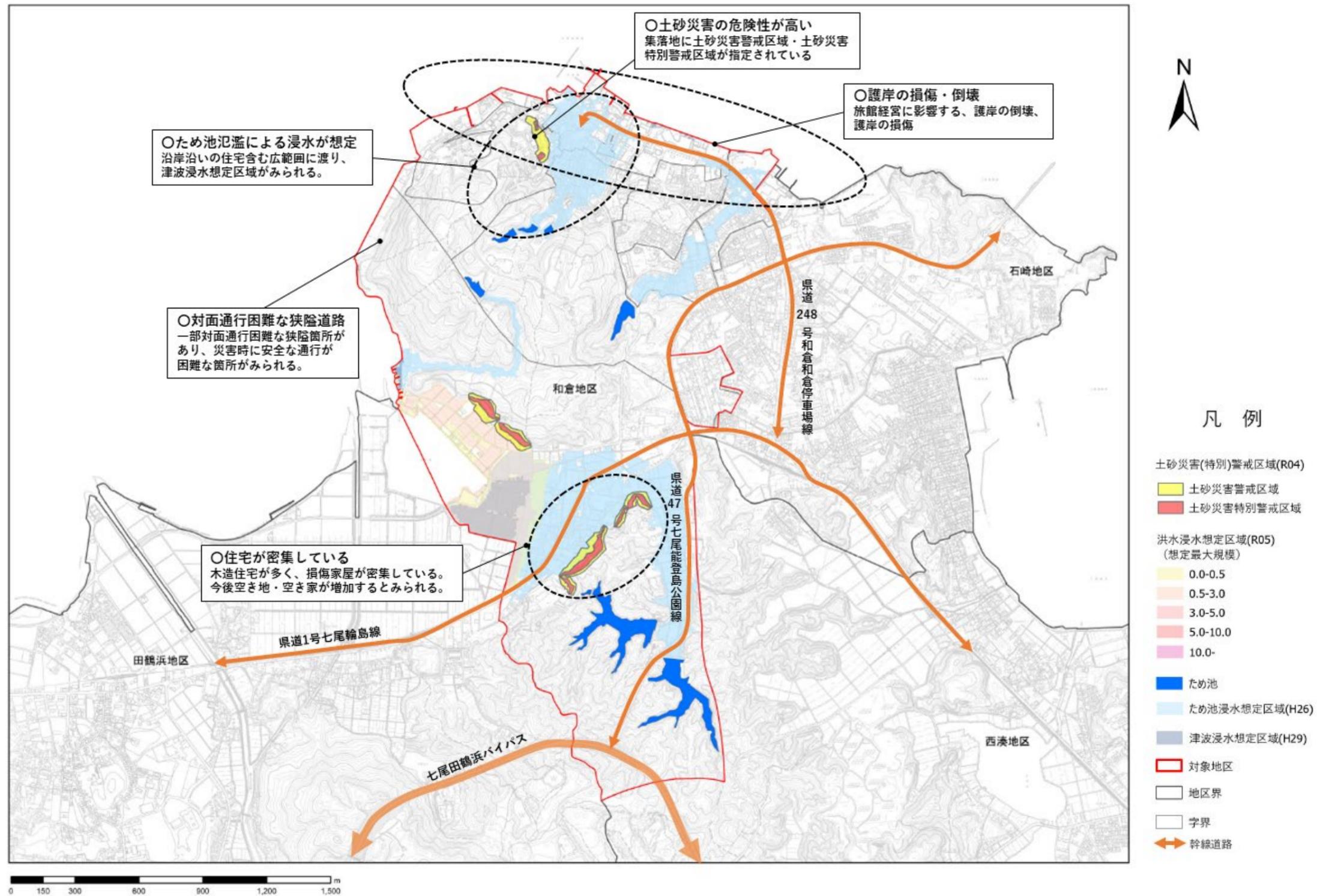
## (2) 各種災害におけるリスク

津波によるリスクが一部想定(0m~1.0m 程度)されているが、今回の能登半島地震では大きな津波被害は報告されていない。洪水・ため池氾濫リスクについては、地区内の山側に位置するため池の氾濫によって、総湯周辺を中心部で浸水する可能性がある。また、現在は廃ホテルが位置する斜面地の一部が、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域に指定されている。

地震が発生した2024年1月1日16時には、旅館に多くの観光客が宿泊をしており、地元住民と合わせて、約2000人が指定避難所である和倉小学校に避難し、体育館は人で溢れかえる状況となった。翌日、順次宿泊者を何らかの形で帰宅させることで、死者・怪我人は和倉地区において発生しなかったが、今後、旅館と地域が連携した業務継続計画のあり方をどうするかという点が課題となった。

津波	わくたまくんパーク~美湾荘前面までで0~1.0m程度の津波による浸水リスクが想定
洪水	奥原川の氾濫により、奥原町の浸水リスクが想定
土砂災害	白崎山の一部が土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域に指定
その他 (ため池氾濫など)	ため池である長池、中池、新々池の氾濫により、総湯を中心としたエリアが浸水想定 地区全体では8か所のため池で氾濫リスクが想定 海側の平野部で液状化リスクが想定

現況分析 | 和倉地区





## 2 地域の課題

### (1) 住宅 | 木造家屋の密集と被災、空き地・空き家の増加と管理

白崎山の山裾に古い木造住宅が集中している。そのため山裾を中心に全壊の住宅が見られた。早期の住宅再建および古い住宅の耐震改修を行い、防災力の向上が求められる。また、被害の大きかった住宅は公費解体を予定しており、今後空き地や空き家の増加が予想されるため、管理や活用について検討が求められている。

### (2) 暮らし | 生活利便施設の立地

商業や子育て機能、教育施設といった、地域住民の生活における機能があり、今後の七尾市の土地利用の考え方とセットで子育て施設の更なる環境整備や地域の生活利便性向上について検討することが求められる。

### (3) 仕事 | 大型旅館の被災

地震によって、地域の観光業は壊滅的な被害を受けた。海沿いの大型旅館は、建物が傾き、ひびが入ることで、旅館の営業再開目途が立っていない事業者が多くある。七尾市の観光宿泊地として重要な和倉温泉旅館の再開が課題である。また、震災で地域を離れてしまった労働者を旅館再開後も確保できるかは不透明であり、労働人材の確保に課題がある。

### (4) インフラ・防災 | 防災活動、避難経路の見直し

旅館の復旧のために、まずは損傷護岸を復旧する必要がある。また、市が震災以前より整備を進めていた和倉 2 号線の道路整備や被災した上下水道の復旧に合わせたインフラの強靱化が求められる。土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域は、既存の斜面地整備から時間が経っており、被災時において、住民だけでなく観光客も安全確保などを想定した対策や防災計画が求められる。

### (5) 交通 | 地区内交通手段の確保

幹線道路から地域へのアクセス動線として西側の道路網強化および高台方面への避難動線のわかりやすさが課題である。また、将来的な公共交通の担い手不足などが想定される中で、生活利便性を向上させる自動運転 EV バスなど、代替交通に関する継続的な検討も求められる。



## 3 復興まちづくりの方針

震災の約2か月後にあたる令和6年2月29日に、和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会が中心となって「和倉温泉創造的復興ビジョン」を策定し、令和7年3月には「和倉温泉創造的復興プラン」を地域の復興プランとして取りまとめた。地域の復興プランに基づき、地域と行政が連携して復興に向けた取組みを推進していく。

### 復興まちづくりの基本方針

#### (1) 住宅 | 居住の考え方

被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、生活の再建に向けた住まいの確保、心のケアなどに取り組む。また復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援・耐震改修など生活再建に必要な住居の確保も重要である。今後は、建物の解体が進み空き家が増えることが見込まれるため、空き地の一時利用といった低未利用地の活用推進に努める。

#### (2) 暮らし | 生活利便性向上の考え方

地域に人が住み続けるためには、生活利便性の向上が必要である。観光客だけが利用するのではなく、店舗併用型住宅など地域住民の日常生活と観光業を共存させることが求められる。復興まちづくりにおいては、住みたくなるまちなかの機能誘導・拠点施設の整備に取組み、子育て施設の確保や域外からの移住支援など、多世代が住みやすい地区の実現を目指す。

#### (3) 仕事 | 産業の考え方

震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた雇用機会の創出および支援が必要である。特に、七尾市や奥能登のハブとして機能してきた旅館業の復興が急務である。観光施設などの早期復旧や機能強化により、地域の要である観光業のいち早い復興を目指し、七尾全体の活性化を目指す。

#### (4) インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方

地域(旅館など)と行政が連携して、安全なまちづくりの考え方を整理する必要がある。避難動線の確保や備蓄品の整備、どのように避難経路や避難所運営を想定するかといった多岐にわたる検討が必要である。県や市の防災計画の整備と地域や事業者が緊密に連携を図り、震災の経験を継承し発信しながら、地区の防災力向上を目指す。

## (5) 交通 | 交通の考え方

災害発生時の物資輸送機能の維持および緊急時の道路ネットワークの強化などのため、土砂災害に対する被害抑制など幹線道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に、国や県と連携し取り組む。また、日常時には地区内の生活利便性を向上させる移動手段の確保に努める。

## 4 復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和7年2月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和6～10年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものとして、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

全2回の意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

### 意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第1回	2025/5/27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後の地域づくり協議会の活動状況について</li> <li>・地域が考えるまちづくりの現状と課題について</li> <li>・地域がイメージする20年後のまちづくりについて</li> </ul>
第2回	2025/7/28	重要と考える復興に向けた取組みについて



地域づくり協議会意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

## 復興まちづくりに向けて考えられる施策

### (1) 空き地・空き家 | 空き家の有効活用や活用の支援【くらし】

本地区では、新規創業や新規開業の需要が高まっており、創業支援やリノベーション支援と併せて、空き家や空き地を活用する。特に、総湯周辺のエリアは、「和倉温泉創造的復興プラン」において、チャレンジショップの導入方針が掲げられている。地区内外の居住者や事業者を受け入れる体制の構築や、空き家や空き店舗の改修支援の拡充を検討する必要がある。

### (2) 防災 | 避難時に利用する施設の整備・強化【インフラ・防災】

避難時に利用する施設の整備や強化においては、住民だけではなく観光客も考慮する。災害時には、官民が一体となり、地区全体で物資の確保や避難所の運営を行うことが求められる。そのためには、災害時を見越した民間施設との連携や防災計画の検討が必要である。

### (3) まちづくり | 地域でのまちづくりの取組み支援【くらし】

本地区の地域の計画として掲げている、「和倉温泉創造的復興プラン」のなかで、特に湯之谷周辺は地域にとって重要なエリアであり、地域からの利活用ニーズが高まっている。土砂災害特別警戒区域に近接していることを考慮し、遊休施設の解体や広場整備に向けた可能性の検討、利活用方針の検討を進める必要がある。

### (4) 公共施設 | 公共施設の機能強化【インフラ・防災】

発災時には、公共施設などにスムーズに避難できることが望ましい。発災時を想定し、小学校などの公共施設の設備改修や機能強化を検討する必要がある。

### (5) 交通 | 新たな交通サービス導入・強化【交通】

現状では、和倉温泉駅から総湯周辺への交通手段として、路線バスやタクシー、各旅館の送迎バスがある。今後、公共交通の再編や人員不足が進むなかで、これらのサービスを集約することや、それに代わる新たな交通サービスの導入を図る。自動運転バスの社会実験などを実施し、その結果を評価することで、導入に向けた可能性を検討する。

地区別意見整理図 | 和倉地区

※この地図は、意見交換会の中で出た意見を記載したものです。

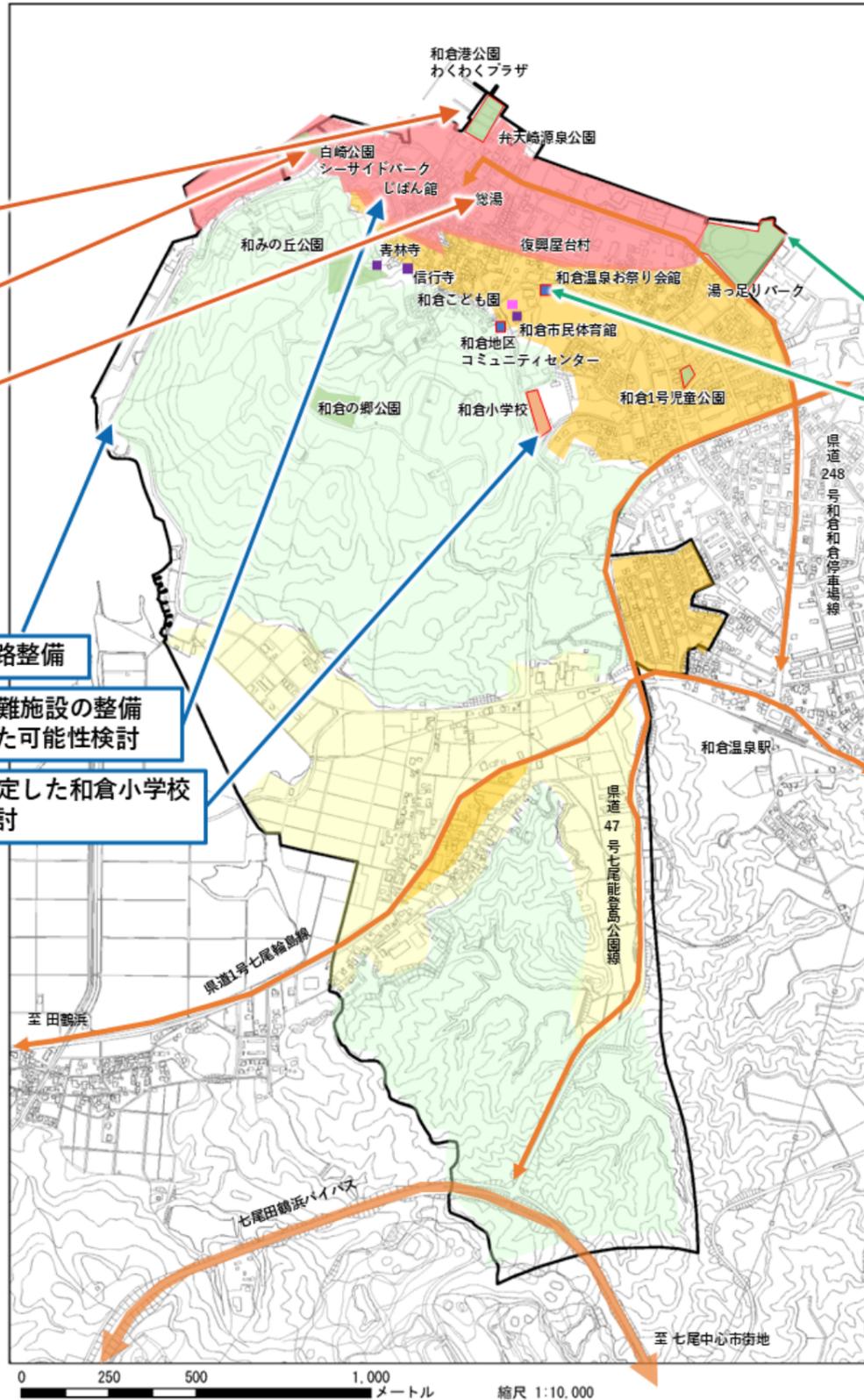
- 仕事**
- (1) 和倉港周辺での商業施設・広場等の整備に向けた可能性検討
  - (2) シーサイドパーク周辺でのアクティビティ施設の整備の可能性検討
  - (3) 総湯周辺での新規開業者を受け入れる施設整備の可能性検討



- くらし**
- (7) 湯っ足りパーク再整備の可能性検討
  - (8) お祭り会館の子どものための施設拡充に向けた可能性検討

- ソフト関連の意見
- 住宅**
- ①住宅再建支援
  - ②空き地・空き家の活用
  - ③耐震改修支援
  - ④店舗開業・創業支援
- インフラ・防災**
- ⑤避難所運営マニュアルの整備
  - ⑥災害時行動マニュアルの整備
  - ⑦災害時の初動対応の講習実施
  - ⑧地域特性に基づく防災計画の策定
  - ⑨防災倉庫の備蓄拡充の検討
  - ⑩民間医療機関との災害時の連携
  - ⑪震災経験の発信と活用
- 交通**
- ⑫まちなかと駅周辺をつなぐモビリティ

- インフラ・防災**
- (4) 和倉2号線の道路整備
  - (5) 湯之谷周辺の避難施設の整備広場整備に向けた可能性検討
  - (6) 災害時利用を想定した和倉小学校の設備改修の検討



**凡例**

●主要機能

- 学校
- 緑地・広場
- 集会施設等
- 医療福祉施設
- 文化・スポーツ施設
- その他公共施設
- 復興公営住宅整備予定地
- 幹線道路
- 指定避難所・指定緊急避難場所

●ゾーン

- 商業・交流
- 住宅・市街地
- 公園・緑地
- 農地
- 森林

●地区別意見整理図に記載の意見の分類

- (1)…ハード事業に関する意見
- ①…ソフト事業に関する意見

- 住宅
- くらし
- 仕事
- インフラ・防災
- 交通

地区別復興構想  
和倉地区